

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車工学		
科目名	振動・騒音の基礎	時期	3年	総時限数	60H

1. 教科の目的

振動騒音の発生するメカニズム及び防止法について、次の項目を理解する。

1. 振動騒音の基礎知識
2. エンジンに関する騒音振動
3. 動力伝達装置に関する振動騒音
4. サスペンションに関する振動騒音
5. ステアリングに関する振動
6. タイヤに関する振動騒音
7. ボデー振動

2. 学習目標

1. 高度診断技術の概要、振動の表し方、振動強制力と固有振動数、両耳等聴覚曲線、共鳴、音圧レベル、振動騒音の防し等について基本を理解する。
2. エンジン本体に於ける振動騒音、燃焼圧力変動、慣性力、給排気系統、クランクシャフト系、冷却ファン、アクティブコントロールエンジンマウンティングブリー、エンジントルク変動による不具合発生等を理解する。
3. クラッチの振動騒音、トランスミッションの振動騒音、プロペラシャフトの振動騒音について理解する。
4. サスペンションのスプリング、ショックアブソーバー、サポートゴムに発生する振動騒音を理解する。
5. ステアリングの騒音振動、ブレーキノイズについて理解する。
6. タイヤの振動騒音、フォースバリエーション、エンベロープ特性等について理解する。
7. ボデー振動騒音の防止について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車工学		
科目名	電気・電子理論	時期	3年	総時限数	40H

1. 教科の目的

電気電子論理の基本的な知識を身に付ける。

1. 電気回路の概要、電気回路及び電子回路の構成
2. 直列接続及び並列接続回路
3. 電気回路の故障
4. 電気回路の測定法

2. 学習目標

1. 電気回路及び電子回路についてどのように構成されているかを理解する。
2. 直列及び並列回路について、直列接続の分圧回路、並列接続の分流回路について理解する。
3. 電気回路の断線及び短絡時の発生現象について理解する。
4. 電気回路での測定方法及び、回路が正常な状態を理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車工学		
科目名	リサイクル	時期	3年	総時限数	20H

1. 教科の目的

リサイクルについて、次の項目を理解し環境問題を考える基礎とする。

1. 概要、産業廃棄物について
2. 使用済み自動車について
3. エアバックについて
4. フロンガスについて
5. バッテリー、タイヤ、LLCについて

2. 学習目標

1. 産業廃棄物とは何か、マニフェスト制度について理解する。
2. 走行済み自動車問題、自動車リサイクル法について理解する。
3. エアバックについて、環境への影響、訂正の処理方法について理解する。
4. 特定、代替フロンについて環境への影響及び取り扱いについて理解する。
5. バッテリー、タイヤ、LLCについて環境への影響及び取り扱いについて理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	エンジン電子制御	時期	3年	総時限数	44H

1. 教科の目的

エンジン電子制御について次の項目を理解する

1. 概要、電源回路の構成
2. 論理信号センサについて
3. リニアセンサについて
4. 周波数信号センサについて
5. スイッチング駆動アクチュエータ
6. リニア駆動アクチュエータ

2. 学習目標

1. 12V電源回路、5V安定化電源回路、電源回路の診断法について理解する。
2. 論理信号センサについて種類及び回路の構成、機能について理解する。
3. リニアセンサについて種類及び回路の構成、機能について理解する。
4. 周波数信号センサについて種類及び回路の構成、機能について理解する。
5. スイッチング駆動アクチュエータについて種類及び回路の構成、作動について理解する。
6. リニア駆動アクチュエータについて種類及び回路の構成、作動について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	シャシ電子制御	時期	3年	総時限数	44H

1. 教科の目的

電子制御式の次に上げる装置について、それぞれの構造作動を理解する。

1. 電子制御式A/Tについて各センサ、アクチュエータ及び制御法
2. 電動パワステについて各センサ、アクチュエータ及び制御法
3. ABSについて各センサ、アクチュエータ及び制御法

2. 学習目標

1. 電子制御式A/Tについて、論理信号センサ、リニア信号センサ、スイッチング駆動アクチュエータ、リニア駆動アクチュエータ、ECUによる各制御について理解する。
2. 電動パワステについて、論理信号センサ、リニア信号センサ、リニア駆動アクチュエータ、EPSによる各制御について理解する。
3. 電子制御式A/Tについて、論理信号センサ、リニア信号センサ、周波数センサ、スイッチング駆動アクチュエータ、ECUによる各制御について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	エンジン新技術	時期	3年	総時限数	36H

1. 教科の目的

ハイブリット及び天然ガス車両について次の項目について理解する。

1. ハイブリット車両の構造作動及び制御
2. ハイブリット車両の点検整備法
3. 圧縮天然ガス車両の構造作動及び制御
4. 圧縮天然ガス車両の点検及び整備法

2. 学習目標

1. ハイブリッドについて種類、特徴、ECU、モータ、ジェネレータ、動力分割機構、H/Vバッテリー、インバータ、コンバータについての構造作動及びシステムの作動、回生ブレーキ等の制御について理解する。
2. 高圧回路の整備、サービスプラグ、補機バッテリー、整備モード検査時の注意など整備上必要なことを理解する。
3. 圧縮天然ガス車両の基礎知識、天然ガスの種類、構成部品の構造作動について理解する。
4. 天然ガス車両の点検整備法、燃料装置及びポンベの取り扱い、検査について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	シャシ新技術	時期	3年	総時限数	36H

1. 教科の目的

シャシの新技術において、次の項目の装置について理解する。

1. 無段変速機CVTについての構造作動及び制御。
2. 車両安定制御ABSについての構造作動及び制御。
3. 車両安定制御TRCについての構造作動及び制御。
4. 車両安定制御VSCSについて構造作動及び制御。
5. SRSエアバック、プリテンショナシートベルトについての構造作動及び制御。

2. 学習目標

1. 無段変速機CVTについての特徴及び変速機構の構造、油圧及び電子制御機能、点検整備法などを理解する。
2. 車両安定制御ABSについて構成部品の機能及び作動、点検整備法を理解する。
3. 車両安定制御TRCについて構成部品の機能及び作動、点検整備法を理解する。
4. 車両安定制御VSCSについて構成部品の機能及び作動、点検整備法を理解する。
5. SRSエアバック、プリテンショナシートベルトについて構成部品の機能及び作動、点検整備法を理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	総合診断	時期	3年	総時限数	28H

1. 教科の目的

正確な問診及び作業内容説明の手法を身に付ける

1. 問診の手法を身に付ける。
2. 正確な整備内容説明法を身に付ける。

2. 学習目標

1. しっかりとした手順に沿った問診を行い正確な診断に繋げる手法を身に付ける。
2. 想定される整備内容に合わせて作業説明及びその必要性が説明できる手法を身に付ける。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	エンジン故障探求	時期	3年	総時限数	24H

1. 教科の目的

エンジンの難解な故障に対し、的確な診断方法をみにつける。

1. 診断の基本
2. 各装置各々に対する故障診断法
3. 警告灯に現れない故障の診断法

2. 学習目標

1. 基本点検では、問診、前点検、再現手法をりかいする。
2. 故障診断では、エアフロメータ、バキュームセンサ、吸気温センサ、水温センサ、スロットルポジションセンサ、O2センサ、クランク角センサ、ISCV、イグナイタ等の故障診断を理解する。
3. 警告灯に現れない故障の診断法では、フューエルポンプ等の診断法を理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車整備		
科目名	環境・安全	時期	3年	総時限数	20H

1. 教科の目的

環境保全、安全管理の重要性及び手法をを身に付ける。

1. 環境保全について
2. 安全管理について

2. 学習目標

1. 環境保全の必要性、自動車の環境問題、資源の有効利用、PRTR法、整備工場の環境対応及び廃棄物処理について理解する。
2. 安全管理において、安全管理の意義、重要性、作業能率、災害の仕組み、不安全状態と不安全状態、災害が起こる要因
災害防止、職場における防火防災、救急処置の心得について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	機器構造取り扱い		
科目名	機器の構造	時期	3年	総時限数	20H

1. 教科の目的

機器の構造特性を知り適切に使用できる知識を身に付ける。

1. デジタル式サーキットテスタについて理解する。
2. オシロスコープ及び外部診断機について理解する。

2. 学習目標

1. テスタの機能、規格、基本測定作業の直流電圧、交流電圧、抵抗測定について理解する。
2. オシロスコープによる点検、外部診断機によるダイアグノーシスコード、フリーズフレームデータ、アクティブテスト、測定機能の活用法を理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車検査		
科目名	自動車検査	時期	3年	総時限数	12H

1. 教科の目的

自動車検査業務に関わる次の項目を理解する。

1. 自動車の軽微な構造変更及び構造変更。
2. 消費者契約法。

2. 学習目標

1. 構造変更検査の手続きを不要とする範囲、自動車部品装着時の保安基準への適合性、指定部品について基準を理解する。
2. 消費者契約法の趣旨、遵守事項、事例について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	学 科	教科名	自動車関係法規		
科目名	自動車関係法規	時期	3年	総時限数	16H

1. 教科の目的

自動車関係法規について次の項目を理解する。

1. 自動車の保安基準

2. 学習目標

1. 用語の定義、自動車の大きさ、原動機、動力伝達装置、走行装置、紗枠及び車体、巻き込み装置、座席、非常口、
2. 灯火装置、警音器、速度計などの保安基準について理解する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実習	教科名		工 作	
科目名	工 作	時期	3年	総時限数	16H

1. 教科の目的

工作作業を行なう事により、溶接機を始め様々な工作機械の使用法を身に付ける。

1. 設計、材料の見積もり採寸作業
2. 材料の切断寸法合わせ
3. 溶接、加工作業
4. 仕上げ、塗装作業

2. 学習目標

1. 図面をお越し、必要な材料を見積もる手法を身に付ける。
2. 切断作業にて各種切断機の使用法をみにつける。
3. 半自動溶接機を中心に溶接技術を身に付ける。
4. 塗装に必要な下処理及び塗装作業技術を身に付ける。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実習	教科名		測定	
科目名	応用計測	時期	3年	総時限数	16H

1. 教科の目的

サーキットテスタ及びオシロスコープによる応用計測技術を身に付ける。

1. サーキットテスタによる計測作業
2. オシロスコープによる計測作業

2. 学習目標

1. アナログ及びデジタル式サーキットテスタにより、バッテリー、O2センサ、スロットルポジションセンサ、バキュームセンサ、水温センサの正確な測定を身に付ける。
2. オシロスコープの測定方法を身に付け、実際にインジェクタ、回転信号、点火信号などを測定し測定方法を身に付ける。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実習	教科名	自動車整備作業		
科目名	エンジン	時期	3年	総時限数	176H

1. 教科の目的

エンジン制御について正常状態及び不良状態を確認し、正確な故障診断を行なう手順を身に付ける。

1. 2メーカーの車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
2. 2メーカーの車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の断線・短絡状態での現象確認及びデータ取りを行う。
3. 各種故障設定を行い、故障診断のシュミレーションを行う。

2. 学習目標

1. 2メーカーの車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行い、基準となるデータを認識すると共に、正確な測定方法を身に付ける。
2. 2メーカーの車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の断線・短絡状態での現象確認及びデータ取りを行い不具合状況を身に付ける。
3. 故障設定による故障診断のシュミレーションを行なう事により、上記の項目がしっかりと身につけているかを確認すると共に、現象による診断手順を身に付ける。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実習	教科名	自動車整備作業		
科目名	シャシ	時期	3年	総時限数	176H

1. 教科の目的

電子制御式A/Tの構造、作動、制御及び故障診断方法を修得する。

1. 電子制御式A/Tの基本確認及び機械的部分の故障探求。
2. 変速時におけるECUよりの出力点検および、回路図を用いた故障探求。
3. 車両を用いた、A/T脱着及び、A/T分解、点検、組み付け作業。
4. 車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
5. 車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の断線・短絡状態での現象確認及びデータ取りを行う。
6. 各種故障設定を行い、故障診断のシュミレーションを行う。

2. 学習目標

1. 電子制御式A/Tの基本的な知識を確実なものにする。
2. 電子制御式A/Tの制御の基本を身に付け、回路図の読み取り作業を身に付ける。
3. 実際の車両を用いて走行テストまで行うことで、確実な作業を身に付ける。
4. 車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行い、基準となるデータを認識すると共に、正確な測定方法を身に付ける。
5. 車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の断線・短絡状態での現象確認及びデータ取りを行い不具合状況を身に付ける。
6. 故障設定による故障診断のシュミレーションを行なう事により、上記の項目がしっかりと身につけているかを確認すると共に、現象による診断手順を身に付ける。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実 習	教科名	自動車整備作業		
科目名	電 装	時期	3年	総時限数	176H

1. 教科の目的

オートエアコンの構造、作動、制御を知り故障診断を行う手順を身に付ける。

1. 車両を用いてセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
2. エアミックスドア制御に関するセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
3. モードドア制御に関するセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
4. プロアモータ制御に関するセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
5. 自己診断機能及び故障診断を行う。

2. 学習目標

1. インストールパネルを分解ECU端子での確実なデータ取りの手順を身に付ける。
2. エアミックスドア制御では、基本制御、補正制御でのセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
3. モードドア制御では、吹き出し口の切り替え時のセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
4. プロアモータ制御では、マニュアル制御、オート制御、補正制御、ウォームアップ制御でのセンサー、アクチュエータ各種の正常値のデータ取りを行う。
5. 自己診断機能を活用し確実な故障診断を行う手順を身に付ける。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実習	教科名	自動車整備作業		
科目名	故障原因探求	時期	3年	総時限数	104H

1. 教科の目的

振動騒音分析器による診断法及び、5ガステストによる診断法を身に付ける。

1. 振動騒音分析器による診断の基本的な考え方及び使用方法。
2. 振動騒音分析器により実車における各種振動の測定作業。
3. 振動サイクルによる、発生原因の特定作業。
4. 5ガステストによる実測作業。
5. 5ガステストによる実測結果を元にした故障診断。

2. 学習目標

1. 振動騒音分析器の使用方法及び結果から原因を導く方法を身に付ける
2. 振動騒音分析器により実車における各種装置より発生する振動を正確に測定する方法を身に付ける。
3. 車両条件及び振動周波数より発生部位の特定を行う方法を身に付ける。
4. 実際の車両を用いて各条件での正確な測定方法を身に付ける。
5. 実際の車両にトラブル設定を行いテストの測定結果にどのように現れるかを認識する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実習	教科名		自動車整備作業	
科目名	基本作業	時期	3年	総時限数	104H

1. 教科の目的

定期点検業務に関わる作業を中心に、基本作業の確実性の向上を図る。

1. ブレーキO/H作業
2. ストラット脱着作業
3. ベルト類脱着作業

2. 学習目標

1. タイムトライアルを交えてブレーキO/H作業を正確に行う手順を身に付ける。
2. タイムトライアルを交えてストラット脱着作業を正確に行う手順を身に付ける。
3. タイムトライアルを交えてベルト類等脱着作業を正確に行う手順を身に付ける。
- 4.

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。

一級自動車整備科

2022年度 教科概要

区分	実 習	教科名	検 査		
科目名	自動車検査作業	時期	3年	総時限数	32H

1. 教科の目的

点検から完成検査までの手順を作成する力を身及び接客対応力を身に付ける。

1. 点検から完成検査までの手順の作成。
2. グループ毎にシュミレーションを行い、反省、改善点についてのミーティング。
3. 改良後、クラス内発表

2. 学習目標

1. 点検から完成検査までの手順を組み立てる事で仕事の効率を考える事ができる。
2. グループ毎にシュミレーションを行い、反省、改善点についてのミーティングにコミュニケーション能力を高める。
3. 他のグループから評価される事により、更に効率の良い手順を作成する。

3. 成績評価

1. 学科目、実習科目の履修成績を認定するため、各科目別に教育評価を行う。
2. 教育評価は、平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。平常評価及び平常試験は、各科目の履修状況を評価するために行う。
3. 学期末試験の評価は、平常評価を加味し、優（100～90点）、良（89～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）とする。